第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

オオトラツグミ

Zoothera dauma major (Ogawa, 1905)

水田拓（公益財団法人山階鳥類研究所）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　鳥類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：水田拓，2026．オオトラツグミ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 781-785．

Citation: Mizuta, T., 2026. *Zoothera dauma major* (Ogawa, 1905). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 781-785.

スズメ目 Passeriformes　ツグミ科 Turdidae　　日本固有

オオトラツグミ

***Zoothera dauma major* (Ogawa, 1905)**

カテゴリー判定結果　準絶滅危惧（NT）　②

基準 A:　—	基準 B:　VU 未満	基準 C:　VU 未満	基準 D:　VU 未満	基準 E:　—

生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。
具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。
②生息条件が悪化している。
【判断理由】
生息条件を悪化させる要因として、森林伐採やノネコによる捕食が挙げられる。これらの問題の対策は検討されており、また一部実行にも移されている。しかし、本種が生息する世界自然遺産登録地外の緩衝地帯において小規模な伐採が続いており、またノネコの排除も完了していない。今後、より効果的な対策を継続的に実施していく必要がある。その具体案が提示されないうちは生息条件の悪化が否定できない。

評価分科会：　鳥類分科会

概要

ユーラシア大陸に分布するミナミトラツグミ *Zoothera dauma* の奄美大島固有亜種。同所的に越冬するトラツグミ（*Zoothera aurea*）とは、羽色や尾羽の枚数、体サイズに違いがあり、またさえずりも明瞭に異なっている。ユーラシア大陸に分布する亜種群との分類学的な検討が望まれる。湿潤な高齢の広葉樹林に生息するが、近年は二次林的な環境にも分布を広げている。森林伐採の減少と外来の哺乳類フイリマングースの根絶にともない、繁殖個体群は増加傾向にある。個体数は 2007 年から 2013 年の間に 2000～5000 個体程度と推定されており、それ以降のセンサスでも減少は確認されていない。本亜種は遺伝的多様性が著しく低く、一つの島にのみ生息していることから、大型台風や外来伝染病などの突発事象により再び絶滅の可能性が高まる可能性は否定できない。また、奄美大島が世界自然遺産に登録され、林業は管理されているものの、本種は遺産登録地外の緩衝地帯にも生息しており、そこで行われる林業の規模によっては生息地の質が悪化するおそれもある。地上で採食する本種はノネコに捕食される可能性もあり、ノネコの管理も奄美大島における重要な課題である。

基礎情報

【形態】

翼長 158.5‐171.0 mm（n=34）、ふしょ長 41.0‐44.7 mm（n=34）、体重 170‐216 g（n=32）。ずんぐりとした体形をしており、脚は長い。上面はくすんだ黄褐色ないしはオリーブ色で、羽軸周辺が白く、先端の黒い羽毛により斑点模様に見える。腹部は白色もしくは淡黄色で、先端が黒い羽毛がありうろこ状の模様となっている。尾羽は茶褐色。尾羽は 12 枚（トラツグミは 14 枚）。上尾筒の羽軸は黒く、トラツグミとの識別点になる。

【生活史】

繁殖期は 3～6 月。木の枝の股、岩棚、着生シダの株の中などに、小枝や苔で椀型の巣を造る。一夫一妻で、メスが抱卵、抱雛を行い、オスが巣内のメスや雛に餌を運ぶ。給餌物の 8～9 割はミミズである。一腹卵数は多くの場合 3 卵。繁殖期には日の出前の約 30 分間を中心に一斉にさえずる。さえずりは「キュルリーン」、「キョロリン」などと聞こえる抑揚のある澄んだ声であり、単調なトラツグミのさえずりとは大きく異なる。

【生息環境】

樹冠がよく閉鎖し、風当りが少なく林床湿度が高い壮齢の広葉樹林に多く生息するほか、2010 年ごろまではマングースの密度の低いところにより多く分布していた。近年は二次林的な環境にも分布を広げている。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林 【陸域_平地部】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

奄美大島のみに分布する。1905 年に新種として記載された際には名瀬（現在の奄美市名瀬）の近郊でも捕獲されており、奄美大島の広い地域に生息していたのではないかと考えられる。しかしその後、おそらく木材の需要が増え、かつ市街地の後背地の森林が耕作地として切り開かれたことにより、昭和の初めごろには市街地周辺での確認は減ったと推測される。1990 年代がもっとも分布域が狭く、中～南部の極めて限られた壮齢の広葉樹林にしか生息していなかった。

現在の生息状況

【分布域の現況】

北部の笠利半島を除く奄美大島の中～南部に分布する。近年は分布が徐々に広がっており、二次林のような環境でも見られるようになった。かつては分布していなかった奄美市名瀬の周辺でも、近年はさえずりが確認されている。名瀬より北の龍郷町の森林にも生息するが、中～南部に比べ密度は低い。笠利半島や奄美大島のすぐ南にある加計呂麻島では確認されていない。

【生息地の現況】

1950 年代から 1990 年代にかけて大規模に行われた森林伐採により、生息地は大きく損なわれた。それに加えて、1979 年にハブを駆除するために放たれたフイリマングースが急増し捕食圧が高まったため、1990 年代は生息地としての質は劣悪であったと考えられる。その後、伐採の減少とマングース防除事業の進展により好適な生息地が増え、それに伴って分布域も拡大した。

【個体数の現況】

1990 年代は個体数が少なく 2002 年発行の環境省レッドデータブックでは「100 つがい未満程度」とされていた。その後、NPO 法人奄美野鳥の会が主体となって毎年春に実施しているさえずり個体一斉調査やその補足調査、環境省による調査などの結果を用いて個体数推定が行われ、2007 年から 2013 年の間に 2000～5000 個体程度（2013 年に 5024 個体）という推定値が得られている。

存続を脅かす要因

かつて大規模に行われていた森林伐採と、外来の哺乳類フイリマングースによる捕食が個体数減少の主要因であった。マングースは防除事業により根絶が達成されたが、森林伐採は世界自然遺産登録後も登録地外で小規模ながら続けられている。オオトラツグミは分布域が拡大し登録地外にも生息しているため、林業の管理は必須である。マングースと同じく外来の捕食者であるノネコもさまざまな野生動物を捕食しており、地上で採食する本種も被害にあう可能性があるため、適切な管理が必要である。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，ゴルフ場，捕食（外来種による）
	（現在）	森林伐採，捕食（外来種による）

特記事項

これまで同種の別亜種とされていたトラツグミは、10～4 月に奄美大島でも越冬するためこの時期は同所的に生息することになるが、交雑は確認されておらず生殖隔離は成立していると考えられる。ミナミトラツグミの亜種間の分類学的位置づけについては再検討を要する。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	オオトラツグミ	*Zoothera dauma major*	VU
第４次 2019：	オオトラツグミ	*Zoothera dauma major*	VU
第４次 2018：	オオトラツグミ	*Zoothera dauma major*	VU
第４次 2017：	オオトラツグミ	*Zoothera dauma major*	VU
第４次 2015：	オオトラツグミ	*Zoothera dauma major*	VU
第４次：	オオトラツグミ	*Zoothera dauma major*	VU

第３次:	オオトラツグミ	*Zoothera dauma major*	VU
第２次:	オオトラツグミ	*Zoothera dauma major*	CR
第１次:	オオトラツグミ	*Turdus dauma amami*	E

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【鹿児島県】絶滅危惧Ⅰ類

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

国内希少野生動植物種，保護増殖事業，国指定天然記念物，鳥獣保護管理法

参考文献

- 奄美野鳥の会，2009．奄美の野鳥図鑑．pp. 18-19, 244．文一総合出版，東京．
- 石田健・金井裕・金城道男・村井英紀，1990．オオトラツグミ *Zoothera dauma amami* の分布，生態および保護．平成元年度特殊鳥類調査，pp. 41-63．環境庁，東京．
- 石田健・植田睦之・藤田剛，1995．奄美大島におけるオオトラツグミの生息状況．平成 6 年度奄美大島希少鳥類生息状況調査報告書，pp. 41-59．環境庁，東京．
- 石田健・杉村乾・山田文雄，1998．奄美大島の自然とその保全．生物科学，50(1): 55-64．
- 環境省那覇自然環境事務所，2019．平成 30 年度オオトラツグミ調査報告書．21pp. 環境省，那覇市．
- 環境省沖縄奄美自然環境事務所，2020．令和元年度奄美希少野生生物保護増殖事業 生息状況モニタリング調査等業務報告書．45pp. 環境省，那覇市．
- Mizuta, T., 2014. Habitat requirements of the endangered Amami Thrush (*Zoothera dauma major*), endemic to Amami-Oshima Island, southwestern Japan. Wilson Journal of Ornithology, 126: 298-304.
- Mizuta, T., M. Takashi, H. Torikai, T. Watanabe and K. Fukasawa, 2017. Song-count surveys and population estimates reveal the recovery of the endangered Amami Thrush *Zoothera dauma major*, which is endemic to Amami-Oshima Island in south-western Japan. Bird Conservation International, 27: 470-482.
- 水田拓，2018．見えない鳥の数を数える ―希少種オオトラツグミの個体数推定―．水田拓・高木昌興（編），島の鳥類学 ―南西諸島の鳥をめぐる自然史―，pp. 309-325．海游舎，東京．
- 塩野﨑和美，2016．好物は希少哺乳類 奄美大島のノネコのお話．水田拓 (編著)，奄美群島の自然史学 亜熱帯島嶼の生物多様性，pp. 271-289．東海大学出版部，平塚．
- Sugimura, K., 1988. The role of government subsidies in the population decline of some unique wildlife species on Amami Oshima, Japan. Environmental Conservation, 15: 49-57.
- 高美喜男・川口和範・石田健，1999．オオトラツグミ *Zoothera (dauma) major* とトラツグミ *Z. d. aurea* の保護個体の形態およびオオトラツグミの保護対策への付言．Strix，17: 191-196．

- 高美喜男・藤本勝典・川口和範・川口秀美・石田健，2002．オオトラツグミ *Zoothera major* の初めて観察された巣立ちまでの営巣経過 2 例．Strix，20: 71-77.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Zoothera dauma major has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Zoothera dauma major* is listed as NT under criteria ②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Forest
Threat types:	Logging and wood harvesting, Predation (by alien species)
Law designation status for conservation	Nationally rare species of wild fauna and flora. Conservation and reproduction programs. Nationally Designated Natural Monument. Wildlife Protection, Control, and Hunting Management Act.



執筆者:	水田拓（公益財団法人山階鳥類研究所）
Author:	Taku Mizuta

公表年月：2026 年 3 月